

『振り返り』はなんのため？ 経験を学びに変えるリフレクション

第13回チャレンジ講座を12月17日（水曜日）に行いました。今回は、教育学部の前田菜摘先生に「『振り返り』はなんのため？経験を学びに変えるリフレクション」というテーマで講義をしていただきました。

まず「学習」とは何かについて、「経験学習モデル」を示しながら、「振り返り」や「概念化」の過程が大事であると話されました。



次に振り返りの質を高めることについて、「省察的実践家としての専門家像」を紹介しながら説明をされました。省察的実践家とは、あらかじめ決まった正解を当てはめるのではなく、目の前の状況に応じて理論や知識を生み出していくような専門家の捉え方であり、「省察」とは自分自身を俯瞰的にとらえて普段あまり意識化しないような自分の考え方や感じ方を意識化してみるということです。「振り返り」は、この省察の考え方と密接にかかわっているとのことでした。

では、どうやったら質の高い「振り返り」ができるのか。「ALACTモデル」から、「本質的な諸相への気づき」すなわち自分の無意識の考え方やものの見方に気付くことが「省察」のカギとなるところであり、それにより「行為の選択肢の拡大」、「試み」につながる、と説明されました。

『振り返り』の質を高めるには？（ワーク2）	
問題ができていたのに、テスト本番ではミスがあった	もっと練習問題を解く 緊張しないようにする
A: 行為	
L: 行為の振り返り	
A: 本質的な諸相への気づき	
C: 行為の選択肢の拡大	
T: 試み	

最後に「思考という要素を含まないでは、意味のある経験はあり得ない」というジョン・デューイの言葉を紹介し、振り返りの質を高めることによって、さまざまなことへのモチベーションアップにもつなげていって欲しい、と受講生に呼びかけて講義を締めくくられました。

今回の記事（講義概要）は、三重総合高校が担当しました。

今回の講座には、オンラインで23校305名の高校生が参加しました。感想の一部を紹介します。

○私は良い専門家は博識である人のことだと思っていましたが、状況を理解して臨機応変に対応できる人のことだと知り考えを深めることができました。私自身も知識をつけた上で、相手が新たな知識を生み出せるような対応をしたいと思いました。スポーツをしていて大学でも続けるので、リフレクションという考え方で自分を客観視して改善点を見つけ、行動していきたいです。また、うまくいったことから学び、技術や精神の向上もしていきたいと思いました！今回は貴重な講義をありがとうございました。

○他の高校の生徒の人の意見や回答をシェアしてくれたのが、とても興味深かったし、新しい考え方を知れてよかったです！

○今まで振り返りをする場面では、反省点に着目することが多かったのですが、今日のALACTモデルの振り返り方法はポジティブに振り返ることができたのでこれからその方法で振り返りをしたいなと思いました。また「振り返り」にも何個か種類があり、興味深いなと思いました。

